鳥海讃歌　ＧＴＨ通信　第４４号　令和３年６月１日（火）
校長室より

伝統は革新とともにある

創立記念日を迎える仁高生に捧ぐ

５月２３日（日）、由利本荘市の２１ドンフェスタ「バンドフェスタ」が開催されました。主催は、由利本荘市の吹奏楽連盟と地区吹奏楽連盟の合同開催です。「吹奏楽に活動再開の咲きでいるじめかが心の光の関係者と関連の行事が再開されることを祈ります。

コロナ禍で思うように活動できない状況が続いてきましたが、ほんの少しの希望を感じ、ワクチン接種の期待感や予防対策をとりながら、少子化の時代に、ふるさとの人たちが集まる場を作ることの意味を考えさせられました。

部員数は２０名前後と少子化の影響で、１学年当たり２０名ほどです。

本校吹奏楽部は、３年生が１０名、２年生が１３名、１年生が４０名と、３学年合計６３名の大編成です。

「４年ぶりに、いましたが、３年生を加えた１０名で演奏しました。

ナレーションで「４年ぶりに、いました。」と目的を明確にし、関係者として嬉しく思います。

桁数の多い吹奏楽部の演奏は、参加者の人数に応じて、相当数聴いた人の心に和みました。

部員数は１３番目の演奏です。

吹奏楽部の仁高は、１３番目の演奏です。

吹奏楽部の仁高は、１３番目の演奏です。

吹奏楽部の仁高は、

さらに創立４０周年記念誌より、当時の生徒会長金子茂紀さんの文章「霊峰鳥海仰ぎみて４０年　そしてこれからも」から抜粋をお届けします。

「霊峰鳥海仰ぎみて４０年　そしてこれからも　金子茂紀（中略）東北の厳しい冷気を越す冬ごもりの日々が過ぎ、雪解けの季節を迎えます。（中略）東北の照りつける夏の暑さが到来し、火の山の噴火が起こることが多くなります。（中略）ここ数年の間に、様々な変化が見られます。（中略）面白くなる年向かう廊下から見える斜面が、ますます進化し、高校時代と蜂と格闘した日々を思い出します。（中略）今、仕事の合間に、ふと目を上げると、校舎の変更や部活動の削減、歴史を進め、保護者の世代交代が進む中で、時代の流れに乗り遅れないよう